

「JENESYS2019」アジア国際子ども映画祭 2019 参加訪日団 参加者の感想（抜粋）

○ 映像制作の分野で他国の生徒と技術的な交流をし、その国の事情や地域の違いによって、同じテーマでも表現の仕方が違うのだと分かった。また、テーマの決定や技術面においても、多くの優れた国・地域の参加があった。彼らとの交流を通して、テーマに対する理解がより深まったし、技術的な知識も増えた。

生活体験においては、日本の文化の雰囲気と美しい景色が印象に残っている。秩父神社、大鳴門橋、東京タワー・・・日本の風土人情について理解が深まった。

○ 関西国際空港に到着した後、最初に気づいた違いは、あちこちに自動販売機とコンビニエンスストアが見えることだった。その後の旅程の中で、日本への理解が次第に深まっていった。日本の国民の素養の高さ、善良で友好的な態度、仕事熱心な姿が最も印象に残っている。通りにはどこまで行ってもゴミ一つ落ちておらず、少しの汚れもない清潔な印象を持った。淡路の農村や田舎の道も同じように清潔なのだ。道行く人だろうと自動車だろうと、私たちが相向かいとなり、いずれかが譲らなければならない状況になると、日本人はいつも譲っている。最大限、安全を確保したいからだ。先生の紹介で知ったのだが、日本人は仕事と日常生活を分けているようだ。オフの時は日々の暮らしを大事にし、仕事の時はしっかり働く。それはある種、仕事熱心だと思った。バスの運転手、タクシーの運転手、コンビニの店員、道路工事の作業員まで、私が会った誰もが、その働き方から、彼らが自分の仕事に責任感を持って取り組んでいると分かった。私たちも学ぶべきところだと思う。中国と日本の文化はどちらも、東洋文化を代表するものであり、古風で素朴、かつ優雅だ。しかし、日本のほうが伝統文化を民間により深く浸透させていると思う。

映画祭と学校交流で得たものは大きかった。異なる国・地域の生徒との交流を通して、彼らの学校生活や取り巻く社会の状況について、これまでと違う見方ができるようになった。

○ 日本はとても親近感の湧く国だ。人々は皆礼儀正しく、多くの人が目が合えばお辞儀をしてくれる。印象深かったのは日本のしゃぶしゃぶだ。今回、初めて食べてみた。最初は火鍋と同じだと思っていたが、後からやはり別物であると分かった。それから、日本の高校も印象的だった。生徒たちとの交流を通して、日本の高校の始業は8時半、終業は3時だと知り、とても緩やかな学校だと感じた。彼女たちは私たちの普段の時間割を聞いて、とても驚いていた。たぶん彼女たちの教育システムは比較的開放的なのだろうか（このような言い方をしてもよいが、よく分からないが）。そのうえ、彼女らの学校には食堂がなく、皆お弁当を持参するようだ。どうやら学校に食堂があってもよいということが分からないようで、大きな文化の違いを感じた。

○ 今回が初めての日本訪問だった。私は食いしん坊なので、日本での食事が印象に残っている。日本の食事は冷たいものが多い。例：刺身、寿司、天ぷらなど。そのうえ、味付けがあっさりしていて、しゃぶしゃぶのスープまでお湯だった。だけど、タレの味付けは濃い。例：醤油やワサビなど。

それから、中国では先の丸い箸を使うが、日本では尖った箸を使う。たぶん日本ではいつも刺身などを食べるため、尖った箸が突き刺して食べるのに便利なのだろう。はさんで食べるのは滑り

やすいから。

日本のお菓子には満足した。特に抹茶を使ったものが好きだ。

全体的に、日本の食文化とマナーが印象深かった。

○ 12月10日、ある女子高（下北沢成徳高等学校）を訪ねた。生徒たちは皆温かく、様々な交流を行った。まず、2人の生徒が中国の生徒1人を案内する形で校内を参観させてくれた。すべて英語で交流して、お互い打ち解けることができた。校舎にはたくさんフロアがあり、使い分けが明確だった。今回の交流は、学校交流の一つのお手本となるような内容だったと思う。面白い活動がたくさんあり、本当の意味での意思疎通と交流ができたと思う。しかし、残念だったのは、中国の世界文化遺産を紹介する時、日本側の生徒が4人しか参加していなかったことだ。大勢の生徒が出席する講演のような形にするべきだったと思う。中国の代表メンバーは真剣に講演内容を準備していた。もっと多くの人に聞いてもらい、広く伝えたい内容だった。今回の映画祭の感想はたくさんある。多くの友達、様々な国から来た友達ができ、一緒にゲームをして、たとえ英語が流暢でなくても、思う存分楽しめた。アフターパーティーではハイになって、みんな舞台上がって踊り、とても打ち解けた雰囲気になった。連絡方法を交換したので、これからも交流と学習を続けていきたいと思う。日本の温泉旅館も特色があって、とても印象に残っている。本当に気持ちがよかった！心も体もほぐされたし、露天風呂から見る景色も美しかった。この映画祭では、とてもすばらしい先生と出会った。仕事がとても周到で、生徒の一人一人に気を配ってくれる先生だった。